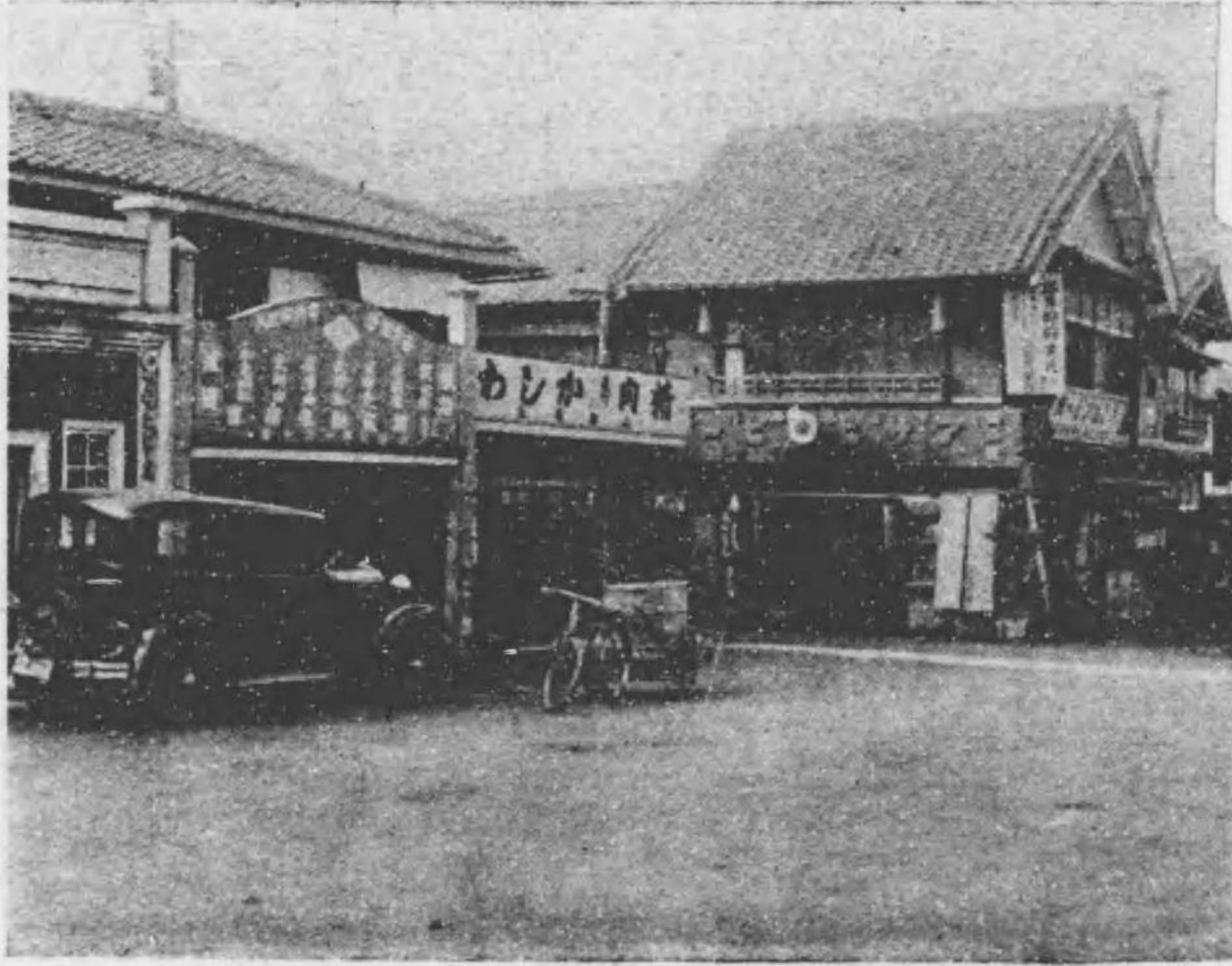


特201

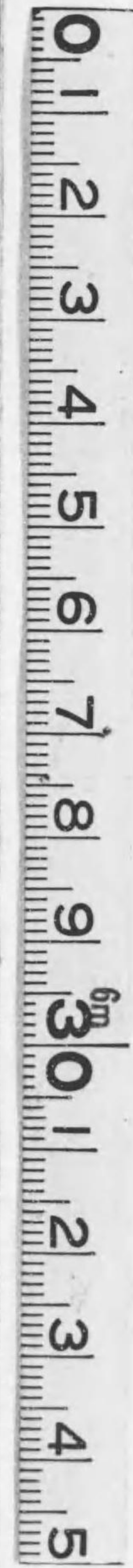
236



(市日三くゆけ展)

内案市日三

始



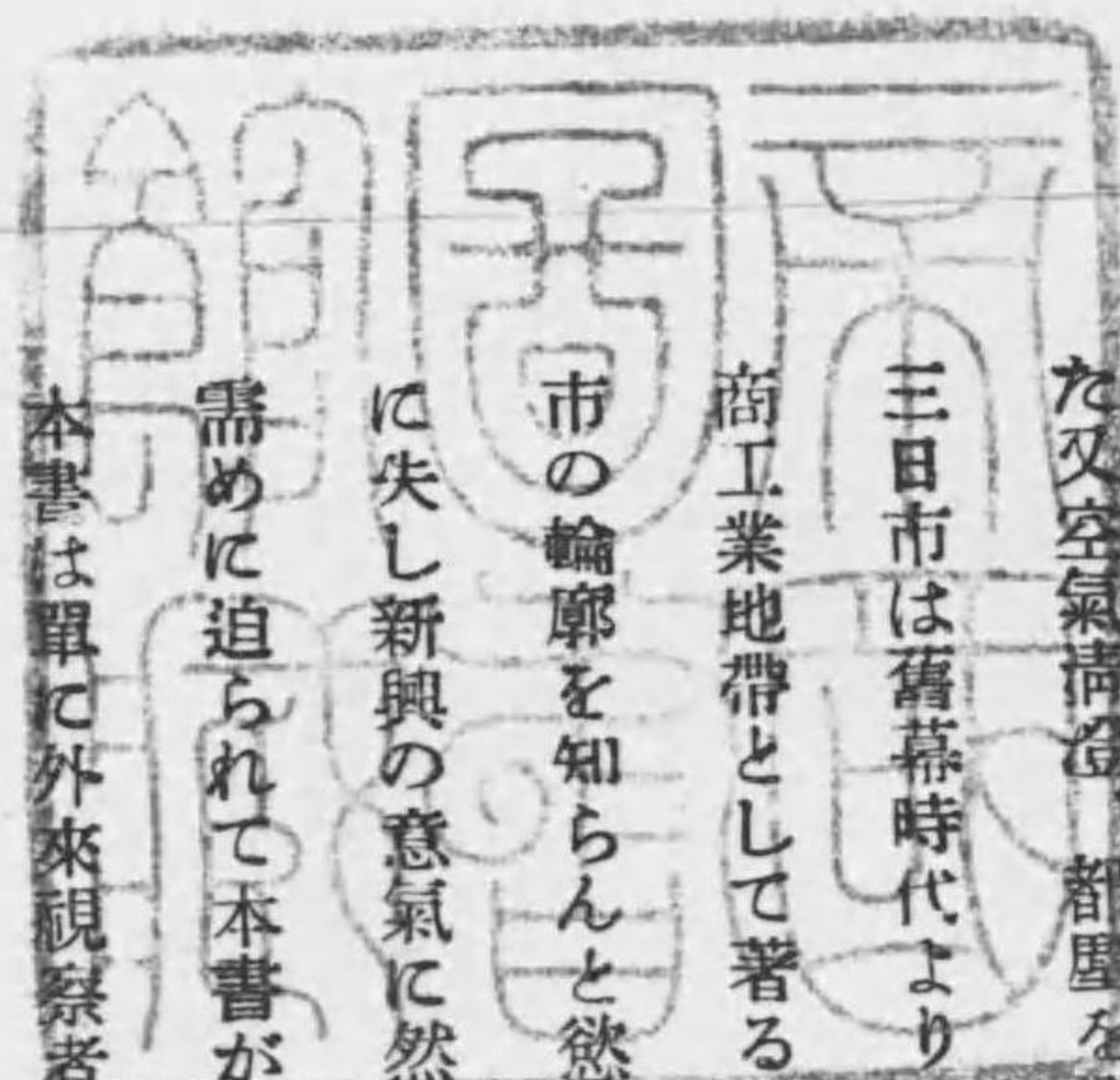
特 201
236

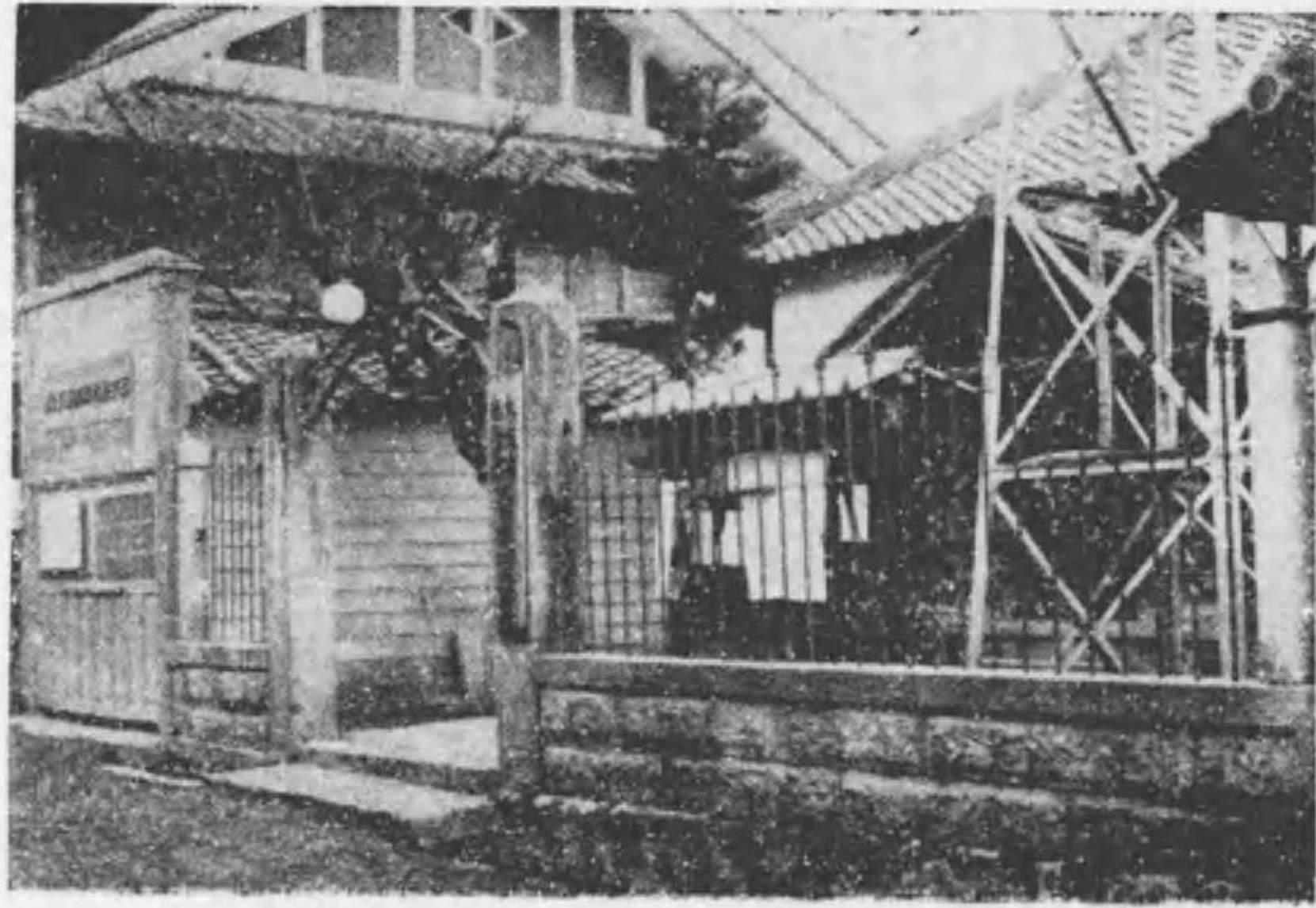
自序

河南三日市は京、阪、神に近く古へよりの名郷にて夙にわが大阪府下の探勝・遊覽・果
た又空氣清澄、都塵を避けるの住宅地として普く近畿に鳴り響いて居る。

三日市は舊幕時代よりの宿場であり、名勝・舊跡探策の地、理想的の郊外地であり、且の
商工業地帯として著るしき發展を示しつつあることは多くの人々のよく知悉し居るも三日
市の輪廓を知らんと慾して街上に適切なる案内書を求めんとするも何れもその一部分を
に失し新興の意氣に然ゆる三日市の親切なる案内書を嘆くものが甚だ多い、是れ等の
需めに迫られて本書が生れたのである。

本書は單に外來視察者、遊覽者の爲のみの案内書たるに止まらず、土地の人々の爲めに
『我等の三日市』を紹介する目的の下に旅行者には餘り必要のない事までも材料として採





(場 役 市 日 三)



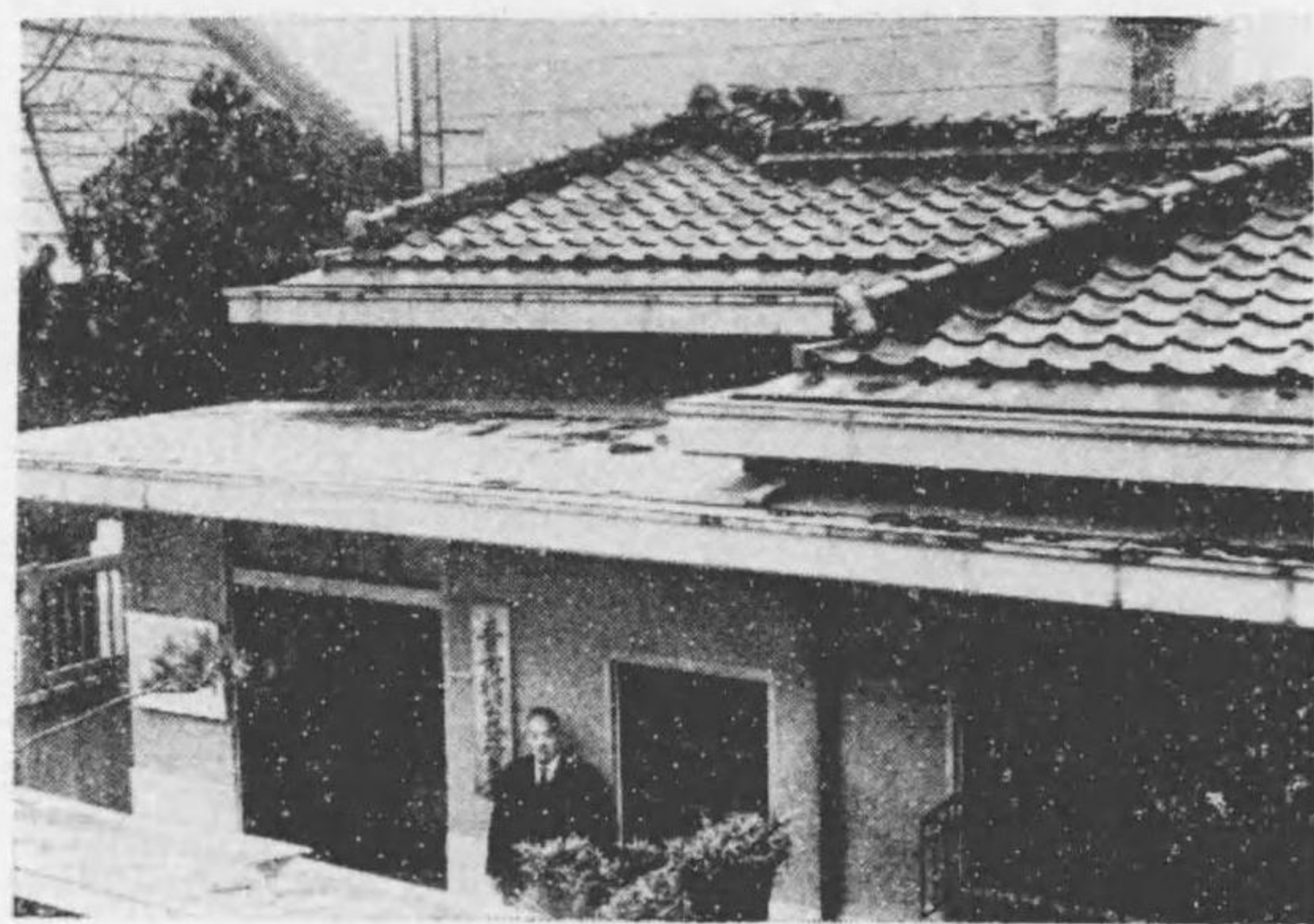
(校 學 小 等 高 常 尋 市 日 三)



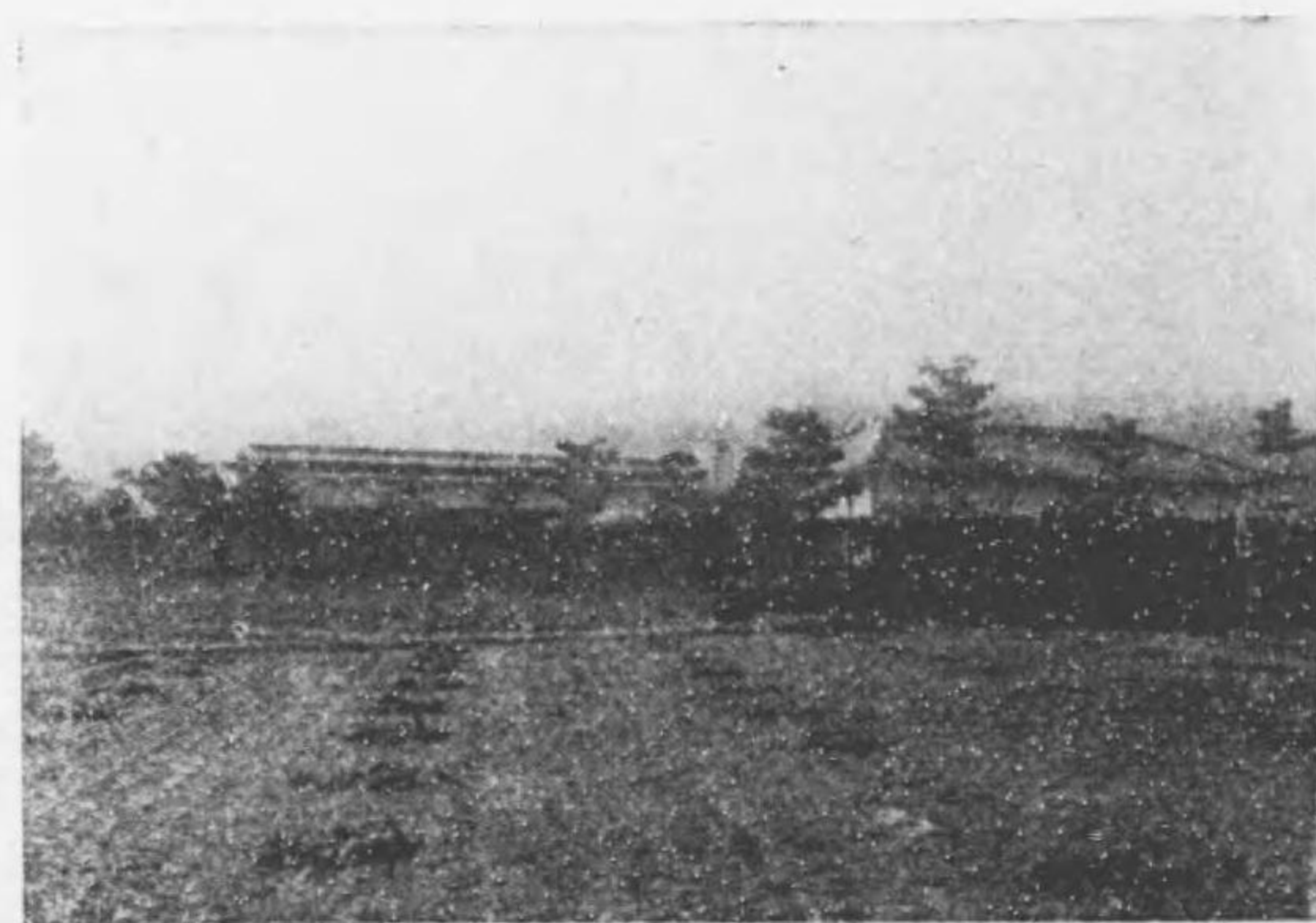
原
靜
村

り入れた。文章を修めず文字を知らぬ私の文書の如きはもとより人に示す可きものに非ざる事は私もよく之を識つてゐる。唯本文は三日市の一木一石に就いて正確にしてある點丈
けは讀者にとつて何等かの御参考になれば幸ひの至りである。
讀者の高教を俟て更らに完璧たらしめたし、
諸賢の諒承を冀つて置く。

昭和九年十二月



(屋質益公市日三)



(院病避市日三)



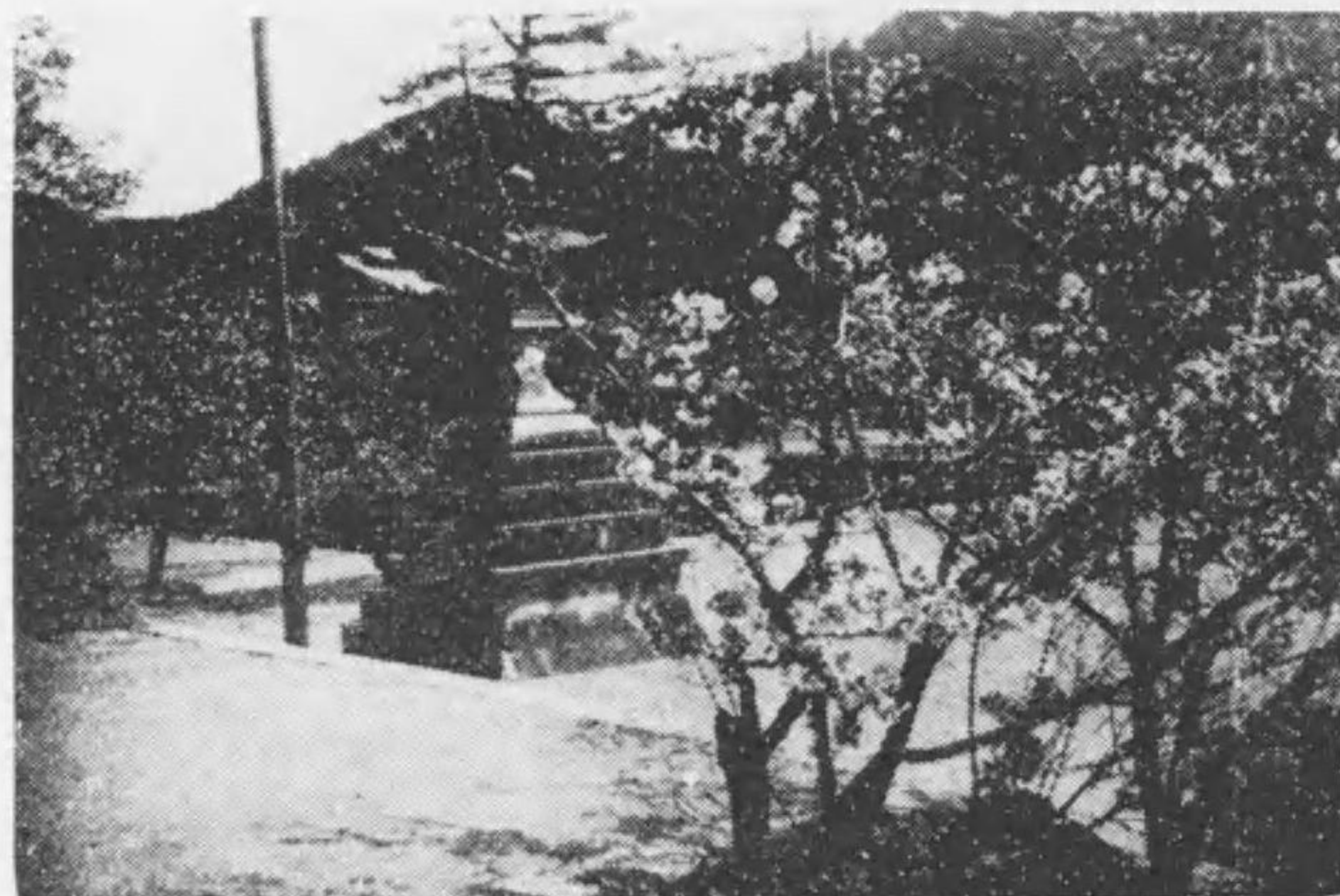
(社神形子帽烏)



(寺命延所名)



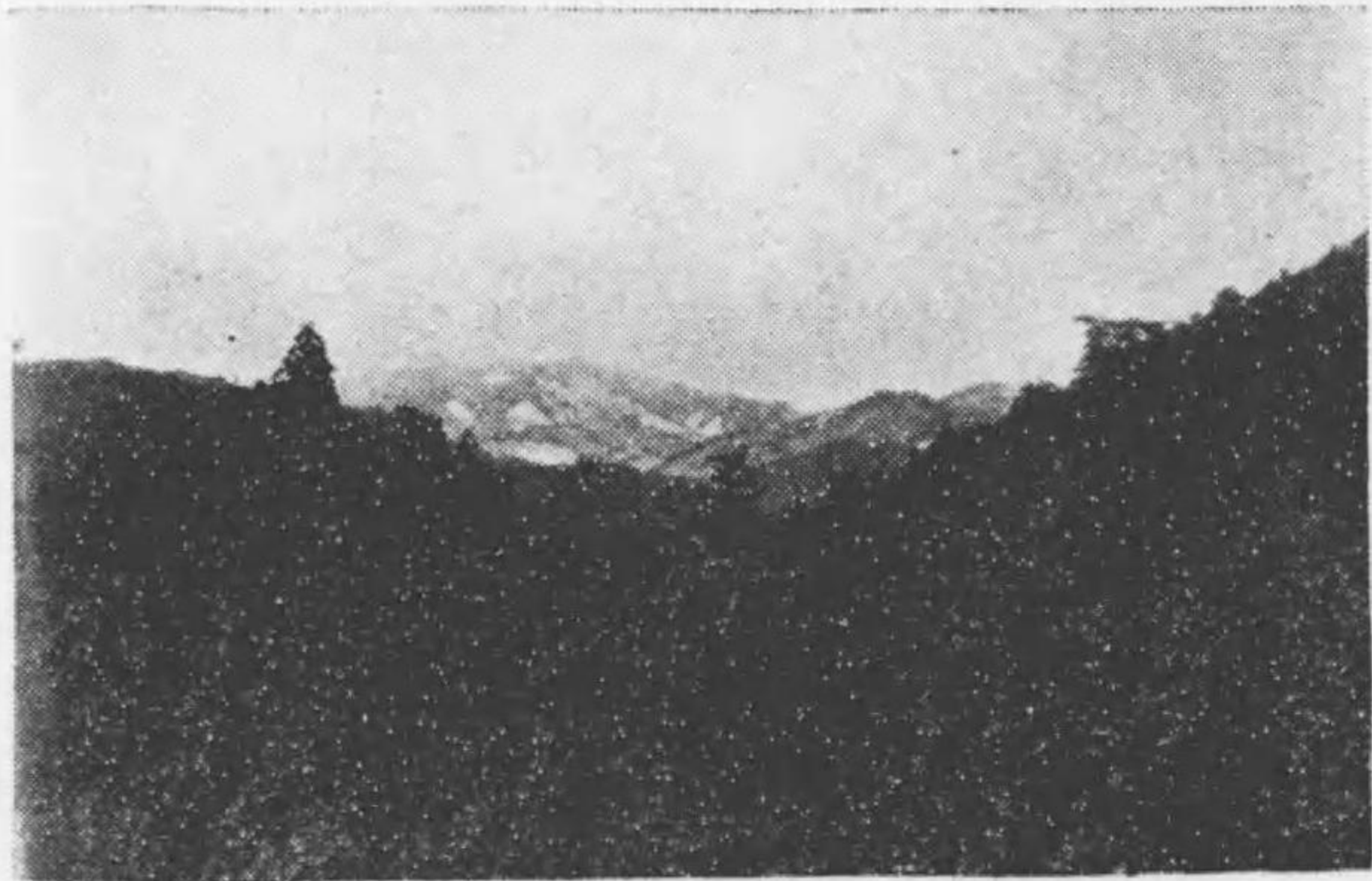
(流清の川市日三)



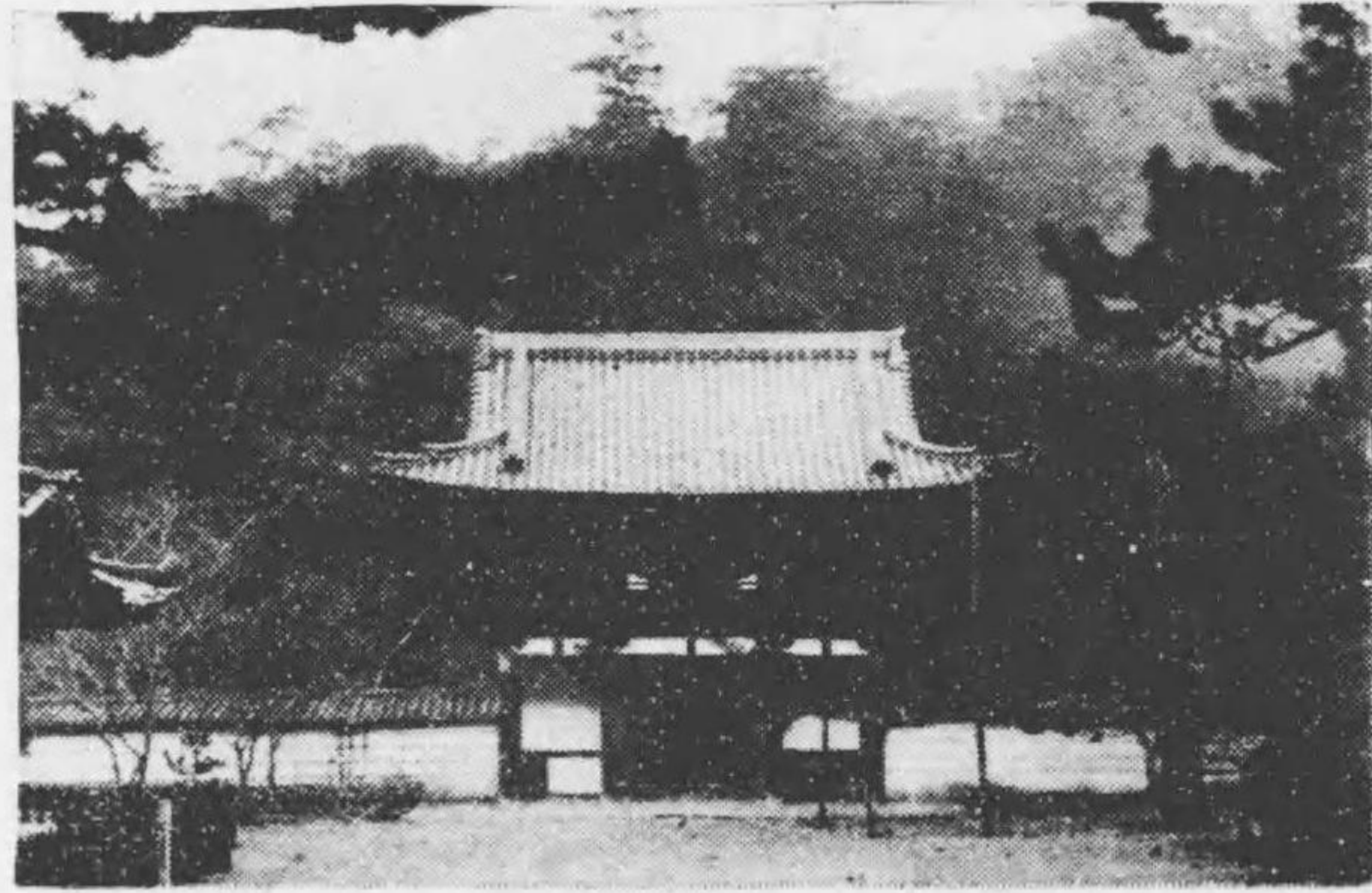
(梅老の寺心観)



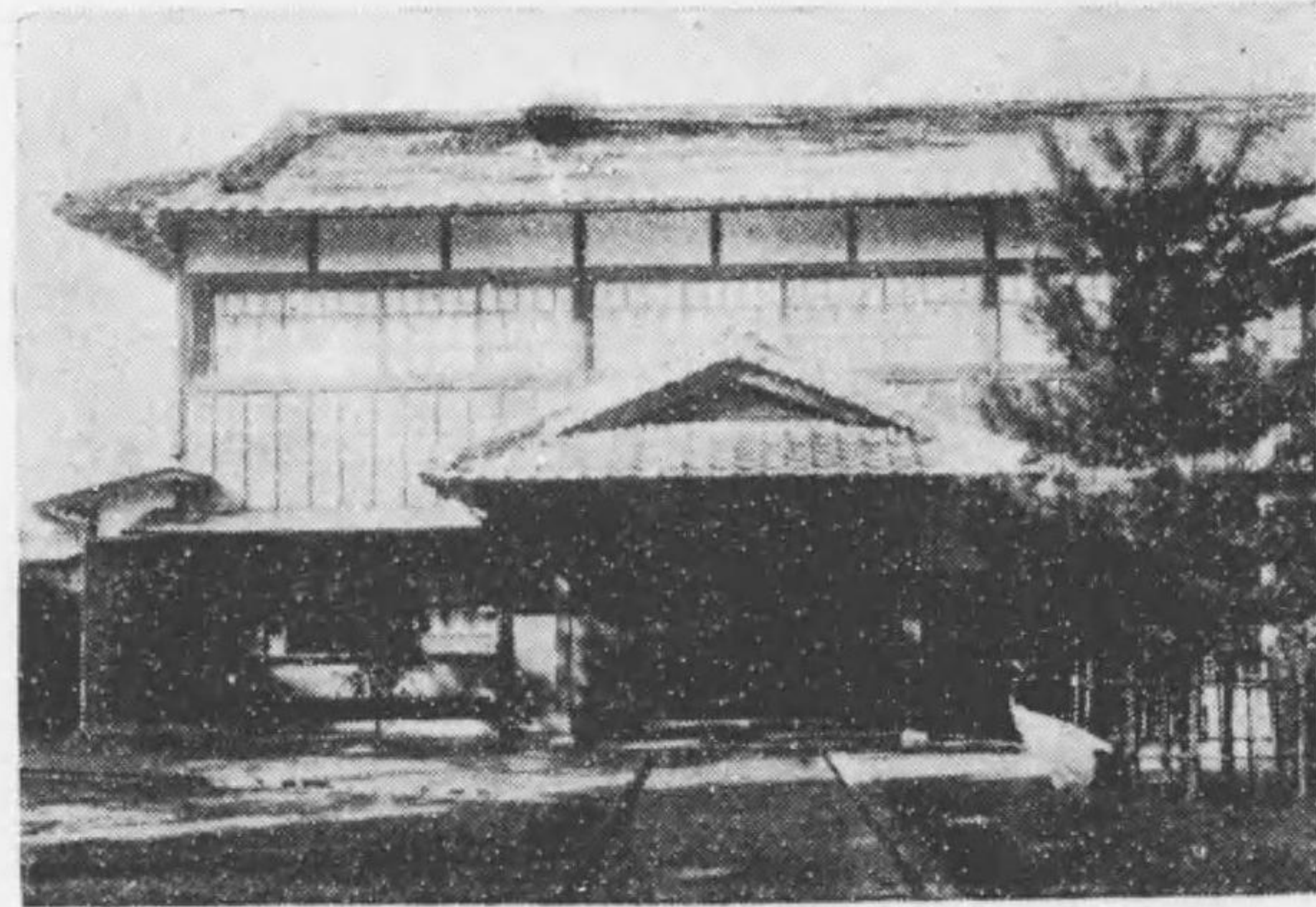
(址 城 早 千)



(む望を山剛金りよ市日三)



(寺剛金山野天)



(庵妣楠)

展けゆく三日市村現勢

河南三日市の名は天下の愛稱である。古へ遠き六百年大楠公の遺蹟と山紫水明大自然美に恵まれ産業に遊覽に將亦住宅地として適し然も住心地良く平和にて今正に町制を布かんとする著名の名郷である。

進展の三日市

三日市村は南河内郡の南部にあつて、往昔より高野街道の宿驛として有名であり、大阪府東部の名郷にして風光明媚大自然美に包有された郷土であり、また忠孝發祥の地、大楠公の遺蹟豊富たる眞に由緒いと深き名村である。三日市村の面積は〇、一二九四方里、周圍五、二一里、廣袤東西十八町、南北二十四町にして戸數人口は益々膨張し西北方には遠く天野聖地を望み、遙か東方に葛城山並び金剛山の靈峯は巍然と聳え立ち、南に岩湧山連峯を眸望に俯し、村の最北端の西南方に指呼の間に烏帽子形城趾を一望に收め本地の南北に沿流して街の中央を貫く三日市川の清流には清澄な

水が涼々として流れてゐる。南海高野線は村を縦貫し交通に至便し三日市驛は街の玄關に堂々として頭張つてゐる。

三日市の氣候は溫和で大氣清澄、往古より有名の錦溪温泉在りて著名であり、其他至る處に景勝舊蹟散在し、商工業また殷盛を極めて大阪、堺の兩市を勢力範圍として益々日進月歩旭日昇天の勢を示してゐる。

三日市村沿革

本村は明治二十二年四月一日町村制の施行に際して、三日市村、上田村、喜多村、小鹽村、片添村の五ヶ村は地形民情共に合併するを便なるを以て、その區域に依りて一村を設け、然して大村なる三日市村の名を彩りて三日市村と名付けたのである。尙各村に其の大字となりたのである。

本村はもと錦部郡所屬でありしが同二十九年四月一日南河内郡に屬したのである。

大字三日市

本地は古來錦部郡に屬して三日市村と稱せり。往時遠近より集まりて此の地に

於て毎月市場を三日開きて賣買せしを以て村名の起源なりと傳へられてゐる。

往時關梁のありし所であつて高野に至る驛路に當りたので道路第一の繁華の地にして民家櫛比して連檐街を爲したり、今も尙郡内の要衝地である。その當時旅舎多くして黄昏頃には厚化粧し河内縞の着衣に忍染のマイダレ美しく目醒るばかりの美出女が往來の人の袖を引き袂を留めしといへり旅亭吉川氏ありて、屋號を油屋と呼んで宮家諸侯の本陣であつた、大字小鹽の湖水を樋管に通じて邸内に引き、浴室を設けて錦溪温泉と稱したり、浴客夥だしく陸續として來り此の地の名泉と謳はれるに至れり。

さゝのやの一夜のまくらわすれしと

書殘さむもあたしことの葉

烏丸資慶

大字上田

本地も古來錦部郡に屬してゐて上田村と稱してゐたのである。宇地に土井といへるあり。

大字喜多

この地も錦部郡に屬して喜多村とよなへり。宇地に平野、別久といへるありたり

其の村里の條に喜多村の名がなくして、烏帽子形城は北村の上にありと河内誌に記してあり、烏帽子形城は上田北村の上方にありと河内名所圖會に記せり。本地は上田村所屬を獨立して一村を爲して文字を改め喜多村に作り替へしたのではないであらうかと考へられる。

大字小鹽

本地は錦部郡に屬して小鹽村と稱す、潮泉のあるところより村名は起りたり。

本地村高貳百九石參斗五升六合の内、貳百八石四斗六合は文祿年間より北條美濃守氏規の領地となり、その八斗九升六合は慶安四年より本多下總守俊次の領地となり、兩氏共に世襲し、北條氏の領地は相模守氏恭に至りて、明治二年六月上地せり依り狭山藩の支配に移り同年十二月二十六日堺縣の管轄となりたり、本多氏の領地は主膳康禎に至り明治二年六月上地したり。依つて膳所藩の支配に移つて同四年七月十四日膳所縣に改まり、後同年十一月二十二日堺縣の管轄となつた。

茲に於いて全村同一管治に歸したり、而して其の後の管轄及び區畫の變遷は大字三日市に同じである。

大字片添

本地は錦部郡に屬し片添村と稱せり。本地は慶安四年より本多下總守俊次の領地

で、同氏世襲して後主膳康禎に至り、明治二年六月上地し、依て膳所藩の支配に移り、同四年七月十四日膳所縣に改まり、同年十一月二十二日堺縣の管轄となる。

然して同縣の區域制定に従ひ同五年二月河内國第二十六區に屬し、同七年一月二十二日第一大區五小區に改まり同四月十三日其の九番組に入り、同九年十二月七日番組廢せらるや單に第一大區五小區となり同十三年四月十四日古市郡役所部内となり、同月二十三日第三聯合に屬し、同十四年二月七日大阪府の管轄に轉じて翌三月五日新町村と二ヶ村聯合して同十七年七月一日第二十二戸長役場の管理區域に入りて、同二十二年四月一日の町村制施行に至れり。

三日市村の戸口

本町の戸數人口は日一日増加して全く進展せる三日市として相應しい數字を現はしてゐる。

戸數人口

昭和八年十二月末現在の戸數は五四七戸、人口は二、七七九人、その内男一、三九四人、女一、三八五人である。

職業別戸數

昭和八年十二月末日の調査にかゝる村内各戸職業別世帯數調査に依ると最も多いのは農業の三三五戸である。統計表に現はれたる處左の如くである。

職業	(種別)	(世帯數)	(従業者)
農業		三三五戸	七一九人
養蠶業		二	一四
工業		二五	五六
商業		一三三	二四六
交通業		四	一五
公務及自山業		六	六
其他職業		四二	五〇

人口動態

昭和八年十二月末日調査に依る一ケ年の人口移異動は左の通りである。

出生	男	五二	女	三六	計	八八
死亡		二五		三四		五九
死産		四		一		五
婚姻		三〇		三〇		六〇
離婚		三		三		六

官公署

- 堺區裁判所三日市出張所
- 三日市郵便局
- 長野警察署三日市駐在所
- 三日市村役場

教育

本村の教育機關として小學校、裁縫女學校、青年訓練所がある。小學校は明治六年六月十五日上田村字堂の辻増福宅を假用して、三日市村、上田村、中瀬村、小塩村、新町村、石佛村、加賀田村の七ヶ村が組合第八番小學校を開設せられたり、之を以て本校設立の創始とす。全年十月加賀田村に於て百六番小學校を設立し加賀田、新町、石佛各村分離したり。七年九月校舎増築落成す、全八年

五月第八番小學校の稱を廢して上田小學校と改む、同二十年四月一日勅令第十四號小學校令に依り上田高等小學校、上田尋常小學校を設置して從來の初等科、中等科生を令訓第七號に基き各級に編入したり。同三十年に至り校舍新築を決議し三日市村大字上田字正法寺前に地を轉じて全年七日落成す、大正十一年校舍擴張と共に現校舍を新築した。同十三年四月上田高等小學校組合を解除し上田尋常高等小學校と改稱す、更に昭和六年四月一日三日市尋常高等小學校と改稱せり。

青年訓練所は大正十五年七月一日創立して、青年訓練所規定に基き三日市尋常高等小學校内に設置し三日市青年訓練所と稱す、裁縫女學校は明治四十年三月三日創立し三日市村立上田裁縫女校として設立せしも明治四十五年三月三十一日之を廢して同年四月二日加賀山、川上、三日市各三ヶ村組合組織にて村立とし開校す、次で大正十一年一月十四日上田裁縫學校を廢し實業補習學校令に依り三日市村外二ヶ村組合、上田裁縫女學校を新設し即日開校した昭和六年四月一日上田裁縫女學校を三日市裁縫女學と改稱した。昭和九年四月川上村分離に依つて三日市村一ヶ村組合裁縫女學校とす。

三日市尋常高等小學校、三日市青年訓練所、組合立三日裁縫女學校

(校名)	(教員數)	(生徒數)
小學校	九	三七二
女學校	三	五一
青年訓練所	五	四〇

各種團體

三日市消防組	四八八人
青年團	一五〇
處女會	1
在郷軍人會	一八二
國防婦人會	四五六

金融機關

信用組合	郵便貯金	公益質屋
------	------	------

農業

昭和八年度の農業家は三三五戸（内自作六一、自作兼小作一五八、小作一一六）である。

工業

本村の工業は近來益々發達して現在は四十九工場を有し、従業員三二五人の職工を有してゐる。

(種別)	(工場數)	(製産額)
機械及び農具工業	六	八七、四四四圓
染織工業	八	五四、九一〇圓
化學工業	三	一〇二、六五五圓
飲食物工業	七	一〇、二五八圓
雜工業	二五	一二、四二三圓
計	四九	二六七、六九〇圓

農工業種別

(農産物)

(工業)

會社

昨年末の會社數は株式會社、二、合資會社、三、の五ヶ會社があり、その總額實に一四六、〇〇〇圓に達してゐる。會社の種別左の通り

(種別)	(會社數)	(總額)	(解込額)
株式會社	二	一三〇、〇〇〇圓	一二〇、〇〇〇圓
合資會社	三	一六、〇〇〇圓	六一、〇〇〇圓
計	五	一四六、〇〇〇圓	一三六、〇〇〇圓

社寺宗教

食用農産物
園藝農産物
工藝農産物
米、麥

機械器具工業
化學工業
飲食物工業
雜工業
染織工業

三日市村の社寺宗教は七ヶ所にして、内神社二、寺院三、天理教會所一、金光教會所一、あり社寺教會は左の通り、

- 烏帽子形八幡神社
- 赤阪上野山神社
- 眞教寺
- 藥師寺
- 興禪寺
- 天理教三日市宣教所
- 金光教三日市教會所

衛生機關

本村民の衛生状態は概して良好である。特に土地風俗に鑑みて衛生施設には特別の注意を拂ひ、毎年夏季に於ては全般に亘りて清潔法を施行し、其他諸種の衛生施設に於て萬遺憾なきを期してゐる。衛生に關する營業者及びその數は左の如し

- 隔離病舎 (一) 醫師 (四)
- 按摩術 (四) 産婆 (三)
- 理髮 (二) 鍼術 (二)
- 長鬚結 (五) 賣藥業者 (四)

村政機關

役場 廳舎位置 大阪府南河内郡三日市村大字三日市一〇五六番地

本廳舎の構造は木造瓦葺平家建にして延坪數四十四坪、公益質屋、倉庫、鐵筋コンクリート二階建十二坪、事務室其の他十七坪九合

名譽職員有給吏員調

- 村長 (一) 助役 (二) 收入役 (一)
- 書記 (三) 給仕 (一) 使丁 (一)
- 村會議員 (一二) 學務委員 (八) 學醫 (一)

土木交通

本村は交通至便にして府道富田村橋本線は本村中央部を南北に貫き、是より分岐して府道三日市停車場、上原線は西に至り高向村にて長野妙寺線に接續和歌山線に通じ、岩湧三日市線は隣村加賀田を経て遠く和歌山縣界岩湧山に至り、延命寺三日市線は隣村鬼住の在寺延命寺に通ずる外途中よ

り支線分れて長野千早口線に連絡し金剛山麓に延ぶ、一方南海鐵道高野線は本村中央部に驛を設置す、其他村道は八線—全延長五里十三町一五間、橋梁七、延長一町三間、全村に亘りて縦横に通ず然れ共住宅地の激増と自動車の發達に連れ幅員狹少を險危防止の爲めに三日市驛前に幅員一間半延長し、二町半の村道及び南に幅員二間半延長、三町の村道新設の多府道富田林、橋本線より分岐（起點三日市町驛）長野千早口線に通ず（川上領）三日市寺元線改修工事完成し此の路線延長十四町三十一間、幅員二間半にして、觀心寺參道の近路にして近時長野より觀心寺に至る道路を本道路に變更し近き將來府道に編入して觀心寺參詣者の至便を圖らんが爲に一大變畫を來し近來此の道路の利用者激増したのである。

諸 車

荷 牛	車 車	(種別)	(臺數)
荷 車	牛 車		一〇六

自動 車	乘 積 車	五三
自 轉 車	自 常 動	二九〇

名 勝 舊 蹟

赤阪上野山神社	増福寺跡	烏帽子形城址	烏帽子形八幡神社
潮泉(錦溪名泉)	岩湧山	大師山	延命寺

「烏帽子形城址」

烏帽子形城址本地大字喜多の西部にありて山容烏帽子に似たるから此の名をとりたりと、烏帽子形山頂に東西四拾間、南北五拾間の平地を爲せるは本丸の址であると云へり。東西南三方今も尙内外濠の殘蹟あり、北方は斷崖にして西方亦登攀の出来ない急峻にして、東方のみは斜面は緩かである。元大手口と呼んで正門のありし所にして古松空に仰烈してゐるなり。本城は城塞中の一たるべく元弘二年楠正成が築造せられ、高向氏之に根據し、後正儀、正武、弘治、永祿年間碓井大和守定

紀、因幡守定阿等それ／＼之に據りたり。慶長十七年村民の一族たる甲斐庄喜右衛門正房が徳川氏に屬して本地を食むに及びて復たその居城たりしも、其後廢墟となりたり。現に本丸の遺蹟に經塚と云へる圓型の封土を殘存し山麓附近に上星塚、下星塚、狐塚等の小古墳が在る。

山は老杉、古松の巨幹に雜木が鬱蒼とした神秘の山である。

『烏帽子形八幡神社』

本神社は烏帽子形山の東半腹にありて素盞鳴命、足仲彦命、神功皇后、應神天皇を合祀せられてゐる。本社は烏帽子形城の鎮守となり楠氏一門に崇敬せられ代々の城主に崇められて來れり、現社殿は元和三年甲斐庄兵衛尉止保の建營せられしものである。

元徳壽院高福寺と云ひ釋迦と聖觀音を本尊とし、楠正成大般若經の轉讀を行ひ、後村上天皇は賊難を吉野に避け給ひし時にその梵鐘を持ち運ばされ、その梵鐘に河内國高福寺鐘康永元年八月楠氏奉獻の由來を刻せられたり。今に賀名生の堀家に所藏せらるなりと。社は明治五年村社に列し同四十年十月十九日大字小鹽字宮山の村社八幡神社を合祀せり。同四十一年十二月神饌幣帛料供進社に

指定せられたり、境内は參白九拾六坪を有し、本殿は大宮造檜皮葺であつて外に拜殿、神庫、社務所が存在してゐる。末社に白山、高良、平野、稻荷の各神社がある。

『赤阪上野山神社』

當神社は應神天皇を祀り字赤阪にあり、創建の年月は不詳であれども、もと上の宮八幡宮と稱へてゐたが、明治維新後現在の社名に改めらる。世人は今も尙三日市の上の宮と稱してゐる。

地形は男山八幡宮に似たりと言へり、境内は九拾四坪を有して本殿は檜皮葺なりしも明治三十二年五月銅屋根に改造せられた外に拜殿、社務所を存す、本社は明治五年村社に列し同四十一年二月六日天見村大字清水字名倉谷口の無格社爲原神社を合祀され、同四十一年十二月神饌幣帛料供進社に指定せられた。

末社に菅原、高良、諏訪、琴平、稻荷、若宮の各神社あり、氏地は本地及び大字片添同清水にして例祭は十月十一日、夏祭は六月二十五日に執祭せらる。

『増福寺址』

増福寺の址は中央にありて、足利氏の往時當國の守護畠山尾張守義深の退隠せし地なりと傳へ聞けり。當時は應永年間創建の眞言宗なりしも明治五年に廢寺となつたのである。寺名は義深の法諱に因みしものなりと言へり。

『眞 教 寺』

本寺は眞宗西本願寺末にして本尊は阿彌陀佛である。創立年月は詳でないけれども、もと天台宗に屬し阿彌陀佛と稱せり、元和年間堺市慈光寺の六世の住職永賢、同寺を去りて當寺に來りて、轉宗して現在の寺名に改められた故に全永賢を以つて中興の祖である。

境内坪數は貳百四拾八坪を有して本堂、庫裡、廊下、門を殘存してゐる。

『三 日 市 の 自 然 美』

春の三日市 四邊一面の野に山に梅も桃も櫻も咲き亂れ、若葉と青葉に薫風が面を叩き三日市川の斷崖の怪岩、奇石の間に生へる老松巨杉に枝垂れかゝる山櫻、黄金色の山吹、唐紅いに燃ゆる原生のつゝじ、藤花の紫白が松ヶ枝に垂れるもまた一人の美しさである。

大空を戀ひ慕ふ雲雀の一聲は天女の奏する音樂のやうである。野には蝶も舞へば谷間のせゝらぎには金鈴のやうな河鹿時雨、一度夜が訪れば三日市川の溪流には赤い戀のハンターである河南特有の螢が己が身を燃やす情火を燦爛と流してゐる。

夏の三日市 夏を知らぬ極樂境、三日市は盛夏の暑さをさけるには絶好の避暑地である。終日涼風そよぎ渡る山の温泉の氣持のよさといつたら酷暑に魅せられあへぎく扇風器に近づいて氷水に親しむ都會の人達には想像も及ばない爽さである。

秋の三日市 周圍の山々の常綠樹の間に河南特有のハゼ、櫻、楓、柿、雜木の葉、おく霜に眞紅が滴たる景、綾錦と織りさす紅葉は實に紅葉の豪華版である。平和な山村を流るゝ三日市川の澄明な水は涼々として流れそこに全山溪谷の眞紅が映えてゐる光景は實に何んとも筆舌に盡す能はざる美觀である。

冬の三日市 三日市は東西山に圍まれてコンモリとしたところだけで冬は殆ど風らしい風が吹かない、日中はまるで南國のやうにボカ／＼と暖たかくアノ林、コノ山、見渡す限り紅蓮の炎の

やうな椿の花の群が互に絢爛を誇りながら旅の人達を喜ばせてゐる。

時折金剛、岩湧の靈峰に薄化粧をして冬の三日市を一層美化させてゐる。それに村内には湯さめのしない音に名高い錦溪温泉がある。

『三日市川の清流』

私は三日市で一等好きなものは三日市河岸の散策である。三日市川は確かに佳い實に良い、アノ三日市橋の上から前後左右の眺めは實になんとも形容の出来ない神秘的幽邃境である。

素より三日市川は古座峽や帝釋峽のやうな巧緻を極めた鬼工ではないが兩岸に送迎する山槽と丘陵と平野と村落の斷崖とそれに三日市ナイヤガラの壯觀、實に悠揚迫らざる自然美の連鎖である。層々として河畔にそのヒダをせり出してゐる山槽の重疊、ドス黒い物凄い深淵と奇岩怪石颯々した河岸を廻ると村道をトボくくとたどつてゐる巡禮、四季それぞれの草花が咲き亂れた茅舎の庭に立つて無心に眺める手足に豆作る質朴な女房や荒い染緋を着た山村の娘さん、炊煙立ちこむる谷間の聚落、點々とした岩上に雜魚を釣る老爺、網を投じてゐる若者、碩に俯伏して衣を洗つてゐる乙女堤塘に草を喰む緒牛それらの一瞬にして轉變する山村氣分の豊かな景色、實に悠揚たる寛懷に人を

親しましめて氣もちをノンビリとさせて呉れるその自然美の中を紫煙を燻らしながらの散策は眞に田園生活の王座である。こんな自然な平和なのんびりとした幽邃境は大阪附近では他に一寸味ハない名郷である。

『河内八里のハイキング』

森林美、岩石美、雲の美、變化の多い溪谷に富むハイキングコースとして學生やアルピニスト間に非常に喜ばれて居るのは河内八里のハイキングである。此のコースは三日市若くは長野町を起點として三日市を横斷して高向村觀音峽、瀧畑を経て光瀧寺に到り光瀧寺より塩澤トンネルを通過し善正村に天野山を経て長野驛に若くは三日市驛に歸るのである。

この行程約二十軒のコースで所要時間は休憩時間を混せて約三時間半である。(但し自動車で)このコースは自動車に依るよりも寧ろ徒歩で周遊の方がまた格別の趣きがある。深山到る處に杉鉾の群山が脚下に起伏し遠くは四國の連峰、詩の國淡路島が繪のように浮んでゐる。

目を轉すれば紀和河泉のアルプスの高山秀峰の群槽は波のように巍然として雲表に秀いで雄大壯嚴である。

『三日市附近の名勝舊蹟』

河合寺

河合寺は寶珠山と號し眞言宗仁和寺末にして十一面觀世音を本尊とす。寺傳に依れば皇極天皇即位二年の春五彩の瑞雲河南の一天に靄鬱す、世人大いに之を怪しみ、天皇もまた奇異の感をなし、蘇我人鹿に勅してその源を尋ねさせ給ひし入鹿勅を奉じて覓めて當山に入り二株の古木を發見し、その下に十一面觀世音及び藏王權現ありて光明赫々たり人鹿大いに驚き朝に歸り帝に之を奏し更に勅を奉じて堂宇を創建しその二株の古木を材として本堂正面の柱に用ひ堂が竣成し右の二尊を安置せり。即ち現在の本尊は是である。

後、十餘年を経て藤原鎌足は天智天皇の勅を奉じて再び七堂伽藍と幾多の僧坊を増建し法燈益々輝き、後醍醐天皇、大塔宮共に御歸依あらせられて壯觀を極めたり。本尊多聞天、持國天、大日如来は明治三十二年八月一日國寶となる、寺前に舊狹山藩主北條家の老臣朝比奈頼母の建てし碑石があり、文は服部南郭の撰にして烏石山人の書である。

觀心寺 (三日市ヨリ二軒)

觀心寺は南河内三大刹の一なり、檜尾山と號し眞言宗金剛峯寺の末である。文武天皇大寶年間役小角の創建にして當寺は雲心寺と號せしが大同年間僧空海唐土から歸朝後來りて當寺に住し一刀三禮して七星如意輪觀音大土の像を刻し本尊とす、而して膺土から携へ來た秘密具を納めて觀心寺と改稱したのである、ついで法嫡道興大師に譲り大師は東寺長者の要職を辭して當寺に住し大いに興隆を圖りて當時の開山と仰がる。

嵯峨天皇は初めて當寺を勅願所と定め給ひ淳和天皇は伽藍を造營あらせられ仁明天皇は官符を下して山地壹千五百町歩及び宸翰の緣起一卷を下賜あらせらる。再來歷朝相繼ぎて勅願所となし給ひ鳳輦を枉げさせられ或は寺領寄附の論旨を賜ひしこと幾十回なるを知らず。

降つて南北朝の時に至りては南朝諸天皇の叡信厚く殊に後醍醐天皇は當寺本尊に歸依あらせられ速に皇業を復興し逆賊を殲滅せんことを祈らせ給ひ、建武中興の偉業成るに及び楠正成に勅して金堂を再營せしめられ、後村上天皇は正平十四年天野山行宮より此に遷せられ、總持院を行宮となして萬代永不朽の勅願所たるべき論旨を賜ひ同二十三年崩御あらせられて寺後に御陵を建てせらる。ついで長慶、御龜山の兩天皇にも屢々臨幸し給ひり往古は無本寺にて四十六坊ありたるも安永年間

には三十餘坊に減じ、慶應の初めには十二坊に減じ明治維新後には益々減じて今は僅に中院のみ残り、境内は廣潤にして五千餘坪を有し雲樹蒼翠として幾多の古蹟はその裡にあり即ち後村上天皇檜尾陵、寶庫、楠建かけの塔、楠公首塚、中院、恩賜講堂、林間學舎等あり、また境内には老梅、巨櫻、楓等多數ありて何れも花時は一大美觀を呈す。

『楠 妣 庵』

楠妣庵は觀心寺より十町余である。庵は楠公夫人の隱栖終焉の地である、夫人は名を久子と呼び南江備前守正忠の妹なり、嘉元二年字矢佐利に生れ、元享三年二十歳にして正成公に嫁し、赤阪村水分の邸に住す。琴瑟相和し正中二年その子正行を挙げしより嘉歷二年正時、元徳元年正儀、元弘元年正秀同、三年正平、建武二年朝成の六男を挙げ、元弘元年正成勤王討賊の誓詞を奏し赤阪城を築くに及び觀心寺の中院に移り専ら正行以下の教養に心を盡せしが延元元年五月二十五日正成は湊川に戦没し、其の兄正忠も之に殉す。正平三年正月五日其の子正行は二十四歳、正時は二十二歳を以て四條畷の戦に陣没し一族郎黨多く之に殉死す。正儀方に二十歳其の後を繼ぎ千早城を修めて之に據り正秀十八歳、正平十六歳、朝成十四歳なりしがみな出で、軍に従へり當時夫人は四十五歳な

りしが正行を失ひしより人生の常なきを感じ、此の東條の山上に數弓の地をトし觀音堂を作り草庵を建て之に隱棲し敗鏡尼と號し緇衣を披き人事を謝絶し其の祖先の良人及び其の子の菩提を弔ひ正平十九年七月十七日六十一歳を以て庵裡に寂し觀音堂南崖の下に葬り塚を築きて五輪塔一基を建て、楠妣庵玉山蒲圓大禪尼と諡せり。(織田完之著楠公夫人傳に依る)

此の由緒いとも正しき靈地は其後取毀れ見る影もなく荒れ果て世人の弔ふものなかつたが東都織田完之氏深く之を遺憾としその遺址を探り楠公夫人傳を著し氏の知己加藤鎮之助氏に謀り、加藤氏は大正四年私財を抛ちて楠公夫人遺蹟保存會を起し且つ楠妣庵の再興觀音堂の再建、記念碑を建設し而して氏の美事快舉は着々と進行し殆ど完成し夫人の遺蹟は全く完全に顯はれ夫人の靈を弔ふと共に混濁せる現代女性思想界に活きた教訓の大殿堂である。

『千 早 城 址』

元弘二年楠正成公の上赤阪城と共に築き同三年此城に據り北條百萬の大軍を惱し遂に王政復古建武中興の大業が成つた天下の名城である。

本丸より四の丸に至る四層階段形をなして本丸の後方に井槽のありし所は城内第一の高所にして千

早神社は此に鎮座す本丸の址には舊礎點在し一大銅標建設せられてあるその東北に袖曲輪の址あり城下の正面なる高所の坦地は正門の櫓ありし所にして的場といふ、背後は金剛山に通ずる一條の山徑があるのみにて百尺の老松斷崖に横たわり、千仞の斷崖深溪に臨み、正面の谷を千早谷と呼び、後方を風呂谷といふ、北山谷は右にあり、妙見谷なり山が高いが清水豊かにして五所の秘水も現存してゐる。

千早神社 本丸址に千早神社あり楠正成及び正行を祀れり。元八幡大神を祭りて千早城の守護神であつたが楠正成、正行を合祀して楠社と稱してゐる。

古墳 神社の背後山勢馬の背の如き所の左側に古墳あり老樹蔚然として聳えるところに二基の石燈あり、延寶八年七月從五位源良總と刻せり、良總は下館藩主である。河内名所圖會には「楠石塔は本丸の蹟の巽にあり、五輪なり、南朝天授六年庚申正月七日左馬頭楠正儀千劍破城内にて病死、五十一歳小光寺秀芳義瑞大居士と號、遺體を埋墓」と記せり。

『天下の靈峰金剛山』

金剛山は千早城址から山頂まで三十町當山は一に高間山といひ葛城山である。海拔一一、一二米山路羊腸として原生の密林で日本アルプスの中でも歩いてゐるやうな氣がする、山頂には葛木神社あり神域には神代杉が參差として畫尙暗き靈域である。山頂の眺望頗る佳く大和、紀伊河内の高山秀峰一眸に見渡し眞に森林美、岩石美、雲の美變化の多い溪谷に富む天下の靈山である。

延命寺 (三日市ヨリ二軒)

延命寺は眞言宗仁和寺末にて藥樹山と號し本尊は如意輪觀世音菩薩である。當寺は僧空海の創建なるも久しく中絶せしところ延寶五年河州の碩德淨嚴大和尚が中興し本尊如意輪觀世音は運慶の作にして本堂の外に護摩堂、釋迦堂等あり釋迦堂に安置せる百濟國聖明王獻納の本造釋迦如來立像は明治三十七年二月二十八日國寶となる。附近には奇しき傳説を有する古蹟がありまた境内には老楓多數ありて紅葉の秋には頗る美觀を呈す。

岩湧山 は全郡加賀田村にあり紀伊九重峠の西端にありて巉富屹立山勢湧出せるが如き靈

山なるが故に岩湧山の名あり。

岩湧寺 岩湧山中にあり湧出山と號し融通念佛極樂寺末にして阿彌陀佛を本尊とし大寶年間役の小角の開基にして文武天皇の勅願所であつた歴代の尊信甚だ厚く國家安全祈願の勅命蒙り賜ひし由緒いと正しき寺である。

天野山金剛寺 (三日市ヨリ八軒)

金剛寺は聖武天皇の勅願により僧行基の草創にして眞言宗の別格本山なり、大日如來を本尊とし脇壇に不動明王降三世明王を安置し爾來法燈は燦然と輝き南河の一大名刹である。

天野山行宮址 天野山行宮の址の蹟は金剛寺の食堂及び摩尼院はそれである。正平九年十月後村上天皇の皇后を賀名生より此に移し常の御殿となし給ひ文武百官扈從し房中に居住し楠正儀和田和泉守正武等之を護衛し奉り宛然龍樓鳳閣に異らず世に天野御殿と稱し奉りたり。

觀月亭 は當時同天皇の深き憂に沈ませられながら觀月の御遊あらせ給ひし聖蹟である。

九重の今もますみの鏡こそ
世をてらす光なりけり
御製

君すめは峯にも尾にも宮居して

深山ながらの都なりけり
藤原爲忠

金剛寺は四圍老樹蔚然として覆ひ境内には櫻、楓、つじ、青葉の頃にはほととぎすは晝でも喧ましい位い啼き秋の萬物紅葉の頃は全山眞紅に燃ゆる四季通じて遊覽客の絶えない名境である。

三日市村醫療機關

古川病院

院長 醫學士 古川權藏氏

人類愛——それはなんと美しい、そうして又なんと美しい言葉であらう。人間のうち誰が自ら好んでこの言葉を否定しようとするものがあらう。

私達は少くともこの麗はしい言葉を否定するものゝあることを信ずる事はできないにも拘らず人類相愛の眞實性を無視しゆく多くの非人類相愛の存在をマザクと見せつけられてゐる。

私達はそのことに直面したとき深刻な悲しみ、恐怖、かつ戦慄を感じる私達は永い間人類相愛の根本正義観念を社會人に絶叫し續けて來た。けれども多くの人々は小我に囚はれ自我巧利心に墮し人類愛の理想郷に歩み近づかうとしない、却つてその途を阻み各自が意識的にも無意識的にも妨害

してゐる、その結果しばく人類相愛と相容れざる惱みをつゞけ繰返してゐる。なんといふ淺ましい人間社會相である。



(院 醫 川 古)

私達はそうした社會人に深酷な人類相愛の徹底意識、人間の本然に覺醒して貰はねばならぬ、そして自からの姿、心を玲瓏たる鏡に映し凝視して欲しいものである。私達は日夜人類愛の美しい言葉をそ

のま、現實化すべく焦慮してゐるものである。

私は過日南河内郡天見村振興講演會の講師に招かれたとき村民より三日市町に眞に人類相愛のために血を燃やしつゝある刀圭界の仁者の在すことを聞いた。それは三日市村に開業してゐられる醫學

士古川權藏氏であつた、眞に古川先生は常に醫の大衆化、醫道を昔の長袖氣分の常軌に引戻さなくてはならぬ、そうして醫者の國營論を高唱する國手である。醫者の天職と使命をハッキリ認識する先生である。

開業以來堅忍不撓の精神を以て河南民衆の爲め自己を忘れて治療に没頭してゐる、現に昨年醫師法改正にいの一番に診療所（小病院）の認可を得て自院の向いに理想的の診療所を設けて患者を收容してゐるしかも入院料は甲が一日五十錢と乙は一圓で犠牲的奉仕をしてゐる。農林荒廢、農民のドン底生活に病苦のため如何にして吾れが救はれんかと心を絲の如くに搔き亂してゐる病める人達にサアいらつしやいと温い手をさし延ばしてゐる。

先生の人類相愛の大精神に縋り救ひ求むる患者數知れず、それらの諸々の患者に對して慈孝神の如き先生は滴る明眸に玉の露を光らして俺は醫者である、醫者なるが故に人命を救はなくてはならぬ。人命は一切平等貧富無差別一視同仁であるとの強い信念の下に聽診器を片手に患者の魂までいたはり撫でさすつてゐる、その古川醫師の姿は實に神々しい。

著名商工業

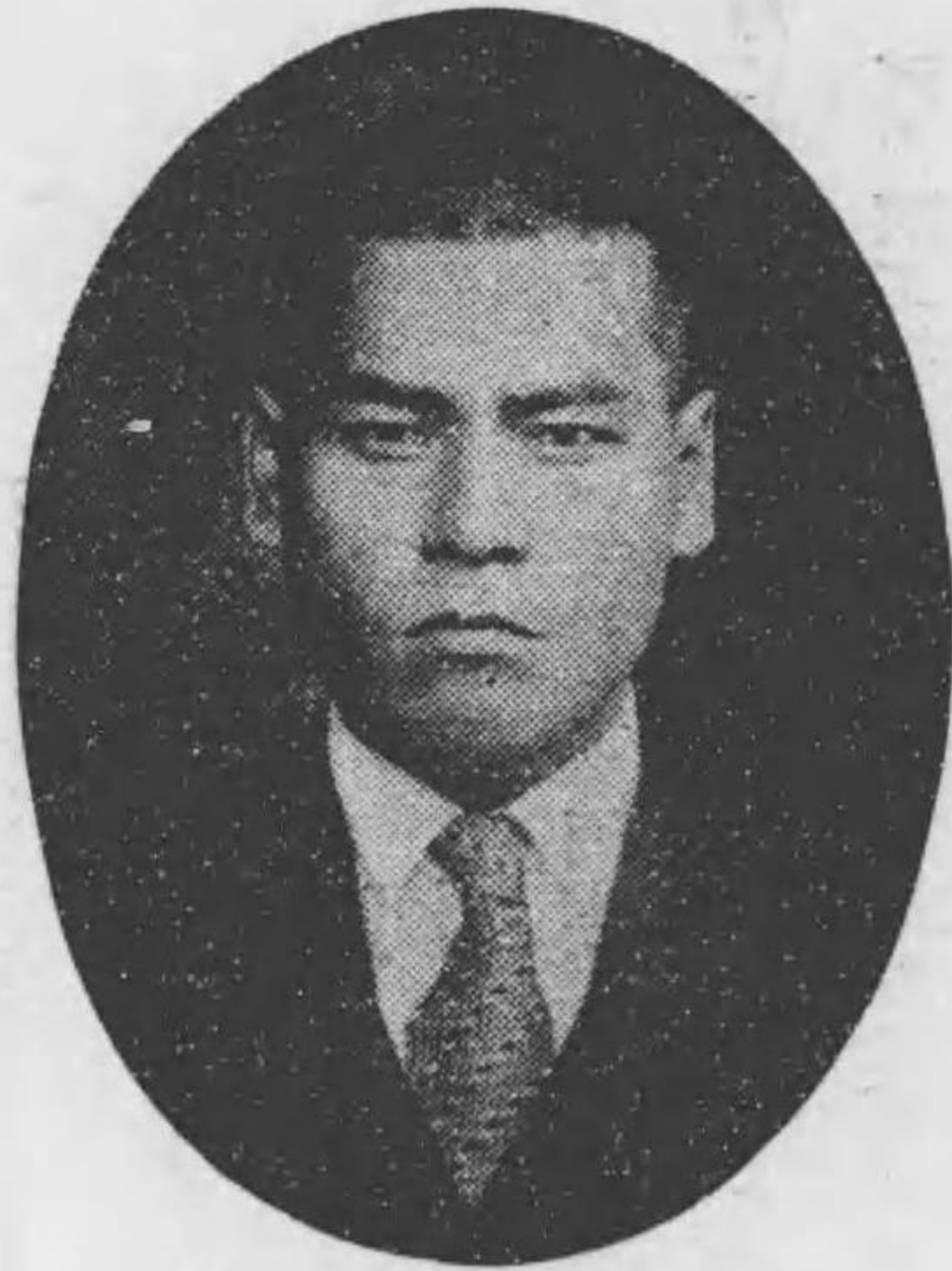
世界の市場に足跡を印する

中西製作所

所主 中西梅一氏

南海鐵道高野線三日市驛の近くに數十棟の大工場がある、これぞ外國品を驅逐し更に逆に海外に輸出し國家的に氣を吐く我が中西製作所の偉容である。工場的位置は大坂府南河内郡三日市驛東であつて、中西製作所の製品はボールベアリング、ローラベアリングで一ヶ年製産高五十數萬圓に達し販路は東京、大阪、福井、廣島、九州、滿洲、支那、南洋諸島である。

同製作所をして斯く隆盛ならしめた功勞者は經營者中西梅一氏及び令弟時男氏で今日を築くまでには、即ち創立の大正十二年四月以來幾多の難關に遭遇したが一難來る毎に氏の兄弟は敢然と勇を振つて排撃し此の人あつて初めて成し遂げらるゝと駐目せしめたほど事業の爲めに勇往邁進を續け



(氏一梅西中 主所)

茲に優良品を造り得た。優良なる工場には優良品ができると世人から折紙をつけられてゐる程である。何しろ創立當時は年産額も僅かしかかつたが今日では五十萬圓以上の産額も出來、販路も内地は勿論海外迄正々鞆々として飛躍してゐる。これは素より同工場の施設の完備と原料の精選、従業員の中西製作所に対する信用を重んずる眞剣さが優秀品を造り益々信望を博するといふ次第であるが斯様に事は信用を得て日に月に進展するので

益々工場の完備に着々身を染めてゐるが元來所主中西梅一氏令弟時男氏等は全従業員家族主義のモットーを以て事業に望んでゐるので工場は常に和氣霽然として春風駘蕩の趣きがある。かくしてこそ勞資協調の麗しき花は咲き、實は結ぶのである

氏の溫情主義には従業員の幸福を同地方に於ける他工場従業員らは一齊に美望の目をもつて見てゐる。而も梅一氏時男氏の兄弟は人格、手腕、識見、力量に到るまで寸分の隙きのない全く文字通りに酷似し其親密全く一身同體である。

世には資産を中心に兄弟が血で血を洗ふの愚を敢て以て世の嘲笑を招くに過ぎざるものが多い時に中西氏の存在は確かに世の龜鑑である。

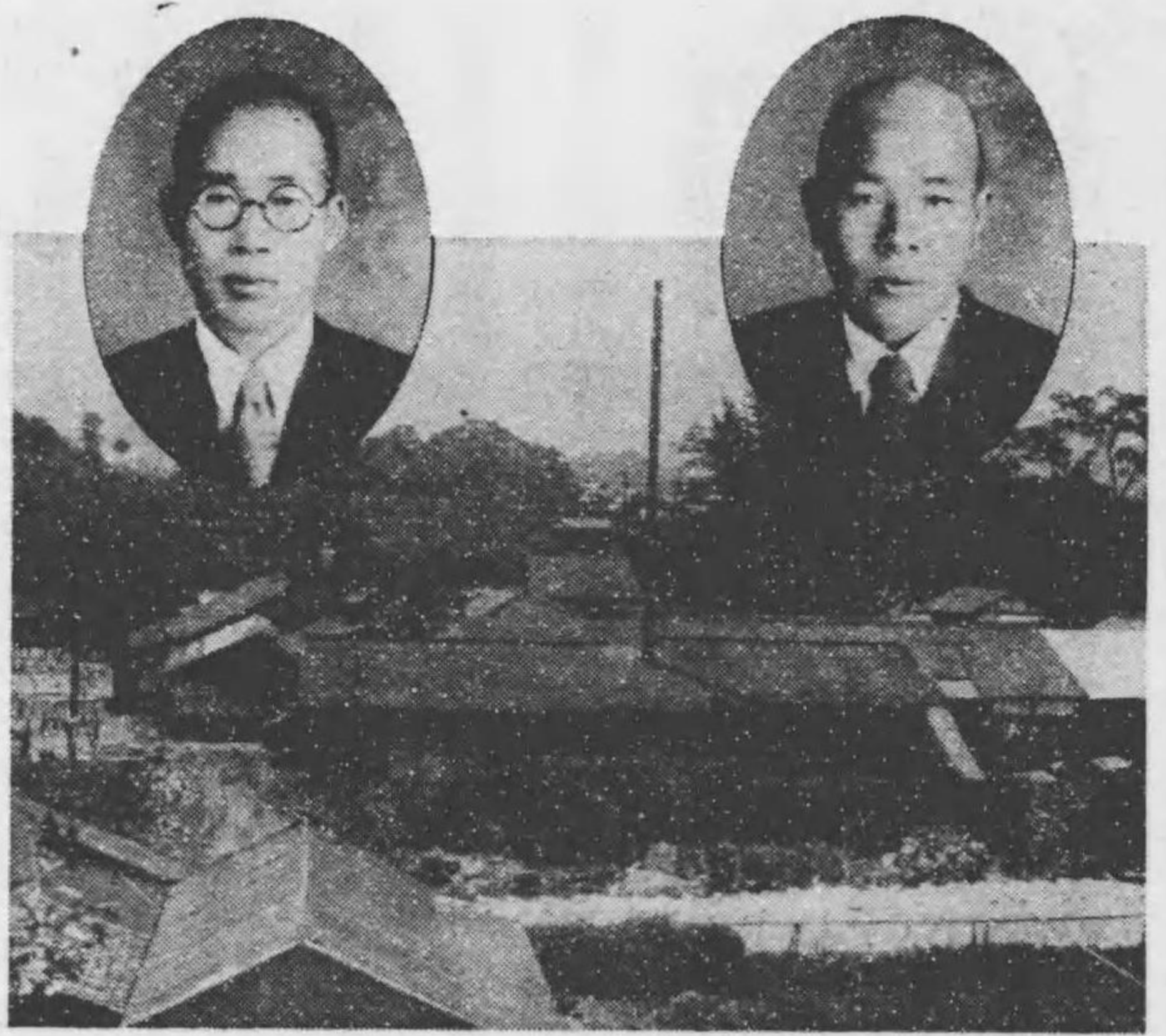
業界の高峰

會社 河内晒工場

大阪府下に於いて數多き晒工業界に異彩を放つて新進氣鋭で鳴つてゐるのは河内晒工場である本地に當工場を有するはたしかに河州人の誇り得る所である。

河内晒工場が府下に於ける業界の覇たることは今更喁々を要せず其の鬱乎たる事業圏は府下業界の白眉にして其の經營振りの周到綿密なる事は遺憾なく宛然一大掌踵の如く起倒盛衰定まりなき事業界に於て、駸々乎々一絲亂れず進展の歩武を示してゐる。

然して今日躍進を續けてゐるは實に經營者竹谷嘉介氏が一意一主義を持し、全心力を其經營に傾注し苦心劃策製品の優良と向上發展の理想に邁進し、また實弟たる竹谷禎之氏は實兄を援けて事務



(務常谷竹左) (景全場工晒谷竹) (長社谷竹右)

に精進せられ、他従業員諸氏もよく協心戮力業務に勉勵努力共存共榮の然らしむる所に依つて今日の成果を得たのである。この關係者諸氏の決心覺悟粉骨碎身、粒々辛苦の結晶に依つて全工場の業績が他會社の企及し得可かざる諸多の優點を有してゐるのもそうした結果に外ならないのである。

當工場は現に日進月歩進展を極重せしも彼の近年になき財界不況當時は事業萎微不振を極め幾多の固難營業不振に遭遇せしも、屈せず、撓まず終始一貫專意復興の一路に邁進し狂亂の事業の怒濤を横逆して遂に能く効果を修め、現に着々擴張の餘裕を示して規模の充實に力め、製產品の優良なるも以上に改良を加へてその聲價を高め、巨然として斯界に整

々堂々足跡は隆々として王者の歩みの感がある。

當晒工場は大正四年十一月に開業し竹谷晒工場と稱せしも爾來隆盛を極め多大の功績を擧げるに及びて合資會社を組織したり。製品種目は軍用晒木綿、輸出ウエス、再製品原料等にてその年産額は約參拾萬貫なり。取引先は米國、英國にして製品は極めて優秀なるを以て頗る好評を博してゐる尙取引先の責任者外國人は一ヶ月に二三回直接當工場に出張して研究指導さるなり、外人の工場出張さるは南河内郡に於て他に見られない所にして、實にその繁盛と信望や言を埃たさるなり。

竹谷嘉介氏は資性沈毅、顛達にして然も宏量先見の明、春眼の鋭く飽迄大事を遂行する勇氣と苦節を備へてゐる人である。

氏は亦一度劃策なしたる事は飽迄も遂行し中途に於いて如何なる障害あるとも斷じて行なへば鬼神も避けると云ふ主義を徹底的に敢行せねば止まぬ人である。而も商業道德の尊重は氏の金看板にして如何なる場合にも斷じて他へに迷惑をかけぬと云ふ嚴然たる信條を有し亦至つて平和な人にて極めて人間味豊かに人を愛する美德は判然として斯界稀に見る士にして成功羊談の人物である。

令弟禎之氏 も亦令兄を相援けて業務に勉勵、従業員を指揮して當工場の隆盛を圖り、專意製品はより以上に優良たるべく研究を重ね精進されてゐる。

運送界のオーソリツチ

中央運送店

河南運送業の中に最も歴史が古くて信用篤く基礎が鞏固で規模の大なるのは何と云つても中央運送店の右に出づるものはあるまい。同店の他に比類なき特長は、其運輸取引の範圍が廣く、而も連絡機關の完備せる點である。同店の營業方針は飽迄も信用と責任とを重んじ、萬一貨物の行方不明行違ひ等のあつた場合には極力調査を遂げる等確實な事は云ふまでもない。それに敏活主義を以て輸送力の速い事は業界の模範であり好評を博してゐる。斯の様な商法に依るものであるから安心して貨物を託せる確實な店である事は十目の見る所である。

同店は國際運送株式會社の取引店にして取引先は内外各地であり亦南海鐵道株式會社所屬運送店

である、業績は日々に多忙を極め、信望隆々として繁盛を極めてゐる。

龜田延治氏 中央運送店主であり資性温厚、篤實にして風采態度の應揚なる而も自然に備はる氣品崇高なる人格を有し、氏が温容に接せんか駭蕩として春風に吹かる想ひがある。

庶民金融の機關

三日市信用販賣購買利用組合

保証責任三日市信用販賣購買利用組合は大正元年九月二十七日設立三日市村大字三日市壹〇六六ノ甲ノ七番地に事務開始するに至りしものにして、爾來順調に發達を遂げつゝあり、彼の財界不況當時も益々その實を挙げ功績著しく、勤儉貯蓄の奨励、風紀の矯正に努むるは勿論小作人の保護又資金の供給其他産業に必要な資金の貸付を爲し、月掛貯金、紀念貯金を奨励しつゝあり、現在に於ける組合員は同村一圓に亘り三百十名あり、出資累計額は二〇五六〇圓である。役員數は理事八名、監事三名、職員二名でありて産業の發達振興に資する所甚大なるものを信すなり。

斯界の雄

三日市鋼管製造所

所主 西村 莊之助

都市の勃興と相俟つて、諸工場及び建築工事頻りに起ると共に鋼管の需用益々増加したのである此の狀況に慨して西村莊之助氏起つて昭和八年三月七日創業し萬難を排して鋼管の改良に専念したのである。その苦心は漸く形に現はれて、遂に完全な製品を賣出すこととなり、外國品よりも安く且品質も優良である。茲に於て業界の雄として信望隆々稱讚の聲が渦巻いてゐる。

製品は引拔鋼管、瓦斯管、各種パイプを初めとし、高壓用ポイラチューブ、ステール管、ボールベアリング用、ロール用、機械車用、建築用、白磨變形管等で取引先は大阪、神戸、滿州、支那各地である。

西村莊之助氏

は情理に富んだ頭腦明敏なる所主にして、來客に對しても慎重に常識の發達した士にして専心專意製品は優秀たるべく常に技術に専念されてゐる。

貨物運輸界に雄飛せる

二階貨物運搬部

二階 淳輔 氏

二階貨物運搬部は河南廣しと雖も貨物自動車の五台以上を調へ活躍する所は同運搬部において他がない實に基礎の鞏固と營業の廣範圍然して業績の著るしきは感嘆措く能わずである。

同部は二階淳輔氏の經營にかゝり貨物の速達を圖るべく交通の便に供し、専ら時代の進運に伴ふ設備と貨物の集配に新經營を冒頭してゐる。而して貨物の取扱に及びては特に破損粉失の恐れなき様に留意して敏活に輸送し得意先を初め一般に親切勉強をモットーとして大阪府一圓を専らとし場合に依りて各地に輸送し文明の機關に相應してゐる。その運搬能力たるや一日に壹百噸にして業務繁忙や伺ひ知れり。運搬料金に至つては特に組合規定を守り公平を視して安價たり。

而して過般大阪貨物自動車組合の設立に際して自ら加盟され、故に貨物自動車の必要を生じたる場合に於いては何等躊躇せず速時に何百何拾台にても調車出來得るのである。今や同運搬部の需要極めて隆盛にてその信望や實に輝々として明である。



(氏 淳 階 二)

二階淳輔氏 は三日市村の出身にして大正六年より大阪市北濱に於て十六年間株式界に活動せられしも、感ずる所ありて退き昭和三年に二階運搬部を三日市に開業したのである。

氏は運輸界の人となりて昭和七年一月南河内郡貨物自動車聯合組合を組織して、組合相談役に就任全年二月近畿貨物自動車業聯盟を組織、常任理事に就任せらる。過日大阪自動車用品商事株式會社

創立に際し大株主として加入したり。南河に於ける貨物自動車運輸界の重鎮であり斯業開發進展に努力されてゐる大阪府下に於ける全業者の統制及成績頼に舉りその功績大いに見るべきものがある亦氏は本地の有力者として村の開拓發展に盡瘁せられ信望の的となつてゐる。

賢實第一主義の

河内製粉工場

所主 南口米吉氏

河内製粉工場は昭和三年十月に河内製粉所として創業せられ、爾來穩健着實を旨として所主南口米吉氏を初め經營者の南口修氏並びに多數の従業員に至るまで熱心業務に奮勵努力優良製品の製造に大努力、以つて今日の如く業績隆々と盛大ならしめ、斯界に隱然重きを爲すに至り聲名躍如として斯界を壓してゐる。

當工場の製品種目は、セルロツン、線香原料、其他各種午末製造(工業用)にしてその年産量目たるや實に大量である。

南口修氏は温厚篤實を以て知られ周圍の氣受け良く假令如何なる場合に於ても少しの輕卒の點もなく常に朗らかに勤勉してゐる。氏に一度會ふや云ひ知れぬ敬慕の念を抱くものである。然して同業者並びに一同より慈母の如くに慕はれてゐる。

堅實に進む

東晒工場

業主 東善太郎氏

當工場は大正九年三月二十六日に創業し東善太郎氏の經營にかゝり堅實に來して着々と進展を以つて信頼を双肩に荷ひ稱讃を博してゐる。

東善太郎氏は初め亡父竹造氏と共に農業にいそしんでゐたりしも氏若くして竹造氏を失ひ直後火災水難の再過をうけ家運衰退せしも、奮然起つて亡父の遺業を繼ぐ傍ら晒業の將來あるに着眼して家族的營業として剛業、專業共に營務する事は適當たりと信じ三十歳の壯年を以て快舉し農界、晒界に盡瘁し日夜奮發、克苦勉勵今日に至る十四有年間一人兩道に貢獻し今や農晒界の重鎮として信望を高めてゐる。然して當晒工場の原料用途は製綿、製絲、原料商、セルにして販賣先の範圍亦廣く大阪、岡崎、河内方面である。

東善太郎氏

は頗る明るき感じのする人で何事をするに於ても少しの無理もなく常に

氣持の良い紳士にして、四男三女を挙げ、子息三人は現在父を援け晒業に従事衷心業務に勵みてゐる父子相互に敬し愛されつゝ一家和樂の内に業績を擧げ以て斯界の模範となり、今や衆人の美望の的となつてゐる。

親切サービス本位の

料理 旅館 しみごり

史蹟に富める三日市……忠孝美德の發祥地河南に稚美と懇切を以て誇り新らしき智識と新らしき經營法に依つて同業者並びに觀客に多大の感動を與へ好評を博されてゐるみどり館は更に獨特の最新裝飾をなし室々に至る迄整飾されたので一層好感を以つて迎へられてゐる。料理も常に新鮮なる材料を使ひ板場も腕利きにて、川魚と野菜料理の清新味充ちて食膳に供するので一般お客さんは勿論、とりわけ食通連の舌端を満足せしめてゐる。

みどり館は新切とサービスをモットーとして眞に家旅的にして暖か味豊かな一流旅館である。

四季の遊覽シーズンには繁忙を極むるも特に松茸狩頃には一會の盛況を呈すると、尙松茸狩には經爲者川中彦治郎氏は自ら新切に案内して呉れる實にお客本位の旅館である。

顧客本位の

左近自動車商會

三日市驛前に堂々たるガレージを構へてゐるのは左近自動車商會の偉大なる容姿である。

同商會は史蹟豊かな河南、大自然美に恵まれた附近の名勝舊蹟の遊覽探勝者の利便を圖る爲に乘心地良き最新式の自動車を以つてサービス百%、價格低廉、お客本位に奉仕してゐる。

その顧客本位たるや一般より激賞され信望を擔つてゐる。全商會は今回長野驛前大通りに出張所を新設して益々發展を續けてゐる。

三日市村人物

三日市村長

塚根丑之助氏

およそ村運の隆盛發達と村民の幸福とは村理事者の指導の宜しき識見と力量如何に依る所甚大である。即ち村の繁榮は之を統轄する人物が基礎なると共に村民共存の根據となるものであるから、其の點に最も意を用ふべき所である。



(長村根塚)

而して之が發達を圖らんとするには、之を指導すべき首腦者に其人を得なければならぬ。然るに今日の状態を見るに首腦當事者が一般に向下しつゝある傾向あるのは實に甚だ憂ふべき現象である。斯くの如き場合に當り三日市町建設の第一線に立ちて雄々しく活躍してゐるのは徳望を以て地方に普き鳴る現村長塚根丑之助氏である。

氏は三日市村大字上田に生れ、其資性温厚にし

て篤實君子の風があるが、他面又剛毅な一面もうかゞわれ、着實を以て有名な村長であり聰明にして果斷な所がある。

氏は大正十年六月二十八日助役に任命され、全十二年二月四日退職、その後二ヶ年柏原町助役を勤め、全十五年九月二十八日村長に就任、その間郡村長會々長の要職を二ヶ年間務め、昭和八年一月二十八日村長を退職せらる。農會幹事として四ヶ年盡瘁せられ、昭和八年九月一日村長に再選せらる。現に信用組合理事の重職に在り。

三日市村助役

嘉田善雄氏

三日市發展開拓の爲に奮闘努力會つて村長を補佐して村政の處理に當るは氏なり。而も克く此の重荷を意とせず却つて全渾の智囊を盡くして之が重職を辱めざりし氏は確かに丈夫である。

氏は三日市村の重要な人物にして村として役場として離すべからざる逸材である。

氏は三日市村大字片添に生る、大正十二年二月十八日三日市村助役に任ぜられ、全十三年六月八日退職昭和三年五月十二日助役に再選せらる。全八年一月二十九日より村長代理に任命、全八年八月三十一日村長就職に付いて代理解除今日に至つたのである。

商業界の 発展に活躍する

三日市商盛會

標榜の三日市、遊覽の好適地河南唯一の三日市として外來者は日に月に激増するのでヨリ良き三日市を建設するには商人の協力一致せねばならぬと、従來のやうな營業方針では時代に合致せないか三日市發展の爲めに損を覺悟して商業界の改革をやらねばならぬと當地有力者間が主唱の下に大正十年九月三日市商盛會を組織し以來商業道德を唯一の武器として斷じて暴らない、決して客に迷惑をかけぬ強い信念のもとに奮闘してゐる。

創立當時の役員は會長 南長壽、會計 宇佐美政吉、幹事 戸川權造、仁道丑太郎、三村豊吉、田中彦次郎、日野谷伊三郎諸氏を初め會員總數は三十名であつた。更に昭和五年四月十五日に役員改選し現在に至る。會員總數は激増して四十七名に昇り、繁盛を如實に物語つてゐる。現役員、會員は下記の通り。

會長 三村豊吉、會計 木谷安三、幹事 細川洋三、戸川權造、阪野藤一郎、仁道丑太郎、北野

五郎、八木佐吉、宇佐美政吉、八木伊造、日野谷伊三郎、田中彦次郎、中谷竹松、柴野榮太郎、麻義春の諸氏にして、會員は片岡彌一、益田福松、阪谷併次郎、畑中惣一、竹谷新吉、西久保作三郎、阪野甚吉、松浦濱太郎、古山源三郎、新谷好太郎、木下伊三郎、梅谷福松、岡孝作、竹谷寛一、眞田寅松、久井清隆、瀧田寅吉、大野彌助、高峯儀六、山田稔、吉野伊太郎、木谷重一、阪野政一、阪野菊一、香川安太郎、中野繁治、矢部政吉、小川徳松、上田龍、柴野福治、柴野辰次郎、小川好雄の諸氏である。【三日市商榮會事務所】（電話長野番外二番）

品質の優秀を以て鳴る

田中晒工場

田中與一氏

品質の優秀と營業方針の堅實と期日の正確を以て有名なる田中晒工場は昭和七年十二月の創業にて製綿原料、再綿、綿晒、絲ウエス等の製品にして、取引先は大阪、神戸方面を重にし品質の優秀

を以て好評を博してゐる。田中與一氏は川上村上野に於て十七年間晒製綿業の實地研究を積み、技功に於ては斯界の第一人者である。然して地の理と擴張の爲めに當地に開業されしものにして、斯界の發展と製品の精良に努力されてゐる。

業界に進出する

益田眞珠工場

益田福松氏

當工場は益田福松氏の經營にかゝるものにして氏は頗る時代の先見の明ありて人造眞珠の前途有望ならに着目し、昭和元年五月に創業し、着々と業績順に擧り現今は日に月に進展し、取引先はイギリス、アメリカ、イタリー、南洋諸島を初め各國に亘り、その製品は頭飾り、耳飾り、腕輪等にして品質優良、年産額四百萬連個たり、今や業界の霸王として稱せられる迄に成功し頗る手廣く營業を續けてゐる。

尙氏は常に人造眞珠の品質改良に努められ、品質の優良を旨として奮闘されてゐる。

名聲躍如たる

寺西晒工場

寺西辰治郎氏

寺西晒工場は大正十四年七月の創立にて現地に於て開業した、製品は晒製品、綿晒にしてその製品たるや優秀なるを以て名聲躍如として斯界に普きたり。取引先は大阪市、大阪府下一圓、堺市にして優良品の製造と内容を以て大盤石の基礎は益々鞏固を加へてゐる。

寺西辰治郎氏は二十四年間斯業に従事し、製品及び品質本位に奮闘努力せられ發展を續けてゐる。

◇全科一般◇

診察 午前
往診 午後

▽隨時入院の需めに應ず (實費)

南海高野線三日市驛前

古川病院

電話 (長野) 一〇一

院長 古川 權藏

看護婦 齊藤 百合子

全全 水植 道木 こふま 枝子

創立
製品課目

大正四年十一月

軍用晒木綿・輸出ウエス・再製品原料

南河内三日市町

合資
會社

河内晒工場

竹谷 竹谷 嘉禎 介

電話(長野)二番

約三十萬貫

イギリス・アメリカ其他

年産額
取引先

(直接取引)

◆貨物自動車運輸一般◆

▽大阪貨物自動車組合共同配車部加盟店

二階貨物運搬部

二階 淳 輔

南河内郡三日市町
電話(長野)七四番

大阪出張所荷扱場

大阪市南區塩町通一濱側
電話(船場)一七二七番

製品種目

〔引拔綱管・瓦斯管〕
各種パイプ製造

南海高野線三日市町

三日市綱管製造所

電話(長野)一四九番

取引先

大阪・神戸・満州
支那・各地

製品種目

セルロシン其他

各種粉末製造販賣

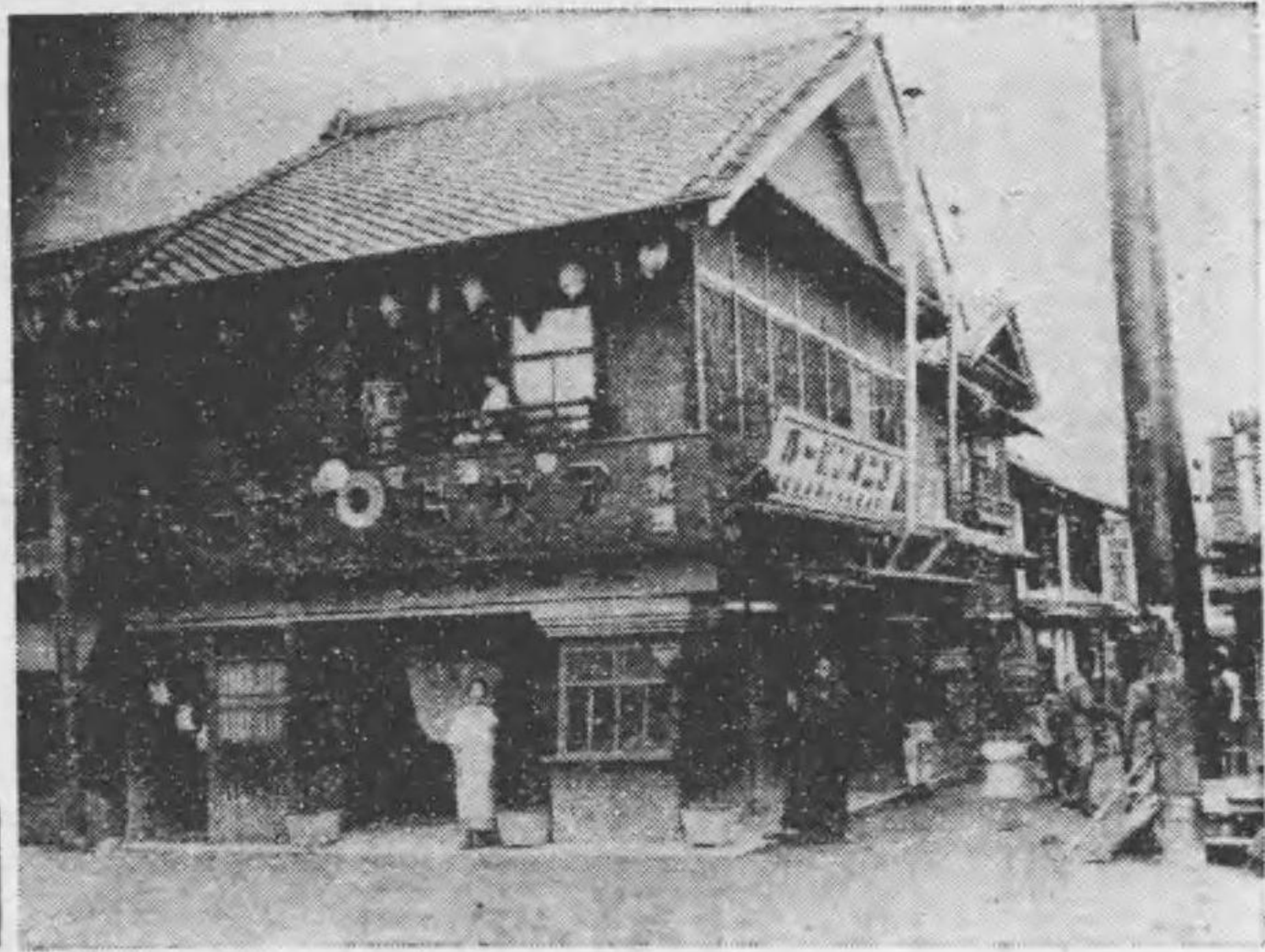
南海高野線三日市町驛前

三日市橋南詰

河内製粉工場

電話(長野)五三番

第一工場	南河内三日市町
第二工場	南河内高向村



(面正りどみ)

▽皆様の御旅館・宴會場
▽感じよいサービス百%

南海鐵道指定

旅館 御料理 **みどり**

南海高野線三日市驛前
電話(長野)一〇五番

製品
起毛綿・消化綿・製綿・脫脂綿・原料販賣

南河内三日市町

寺西晒工場

工場主 寺西辰次郎

取引先
大阪・大阪府下・堺

取引先 内外各地

◎國際運送株式会社取引店
◎南海鐵道所屬運送店

中央運送店

南海高野線三日市町驛東
電話(長野)一四九番扱

製綿原料

東晒工場

東善太郎
南海高野線三日市役場東

製品

〔製綿原料・再綿〕
綿晒・絲ウエス

南海高野線三日市驛東

田中晒工場

場主 田中與一

電話(長野)一四九番扱

取引先

大阪・神戸

◎お買ひ物は……三日市商盛會へ!!

員 會

北野	細川	新谷	古山	松浦	阪野	三村	西久	竹谷	戸川	畑中	阪野	阪谷	益田	仁道	片岡
商	商	商	商	商	米	服	商	商	貨	商	商	炭	商	服	魚
店	店	店	店	店	店	店	店	店	店	店	店	店	店	店	店
日之谷	山之田	田中	高岸	八木	大野	龍田	木谷	久井	梅の	竹谷	岡表	宇佐	綴谷	木下	米新
吳服	精肉	食料	岸商	陶器	野商	カフエ	麵類	荒物	家旅	文具	表具	美商	金物	菓子	商
店	店	店	店	店	店	1	店	店	館	店	店	店	店	店	店
小川	中竹	柴野	柴野	柴野	上田	柴野	麻履	小川	木谷	矢部	中野	香川	阪野	阪野	吉野
藥	吳服	自轉	乾物	金網	金網	履物	菓子	魚	荒物	自轉	川商	小間	菓子	菓子	生魚
店	店	店	店	店	店	店	店	店	店	店	店	店	店	店	店

製品種目

人造眞珠製造 (装身具)

年産額

四百萬連個

取引先

イギリス・アメリカ・イタリ
南洋諸島・其他各國

益田眞珠工場

主 益田福松

南海高野線三日市町
電話(長野)六四番

呉服・雜貨

仁道商店

南河内三日市町

乾物・魚・青物

阪野商店

南河内三日市町

南河内三日市町

戸川百貨店

電話(長野)一五一番

呉服・メリヤス

三村呉服店

南河内三日市町

乾物・生魚

細川商店

南河内三日市町

泉屋ハキモノ

北野履物店

南河内三日市町

酒・醬油其他

米新商店

南河内三日市町
電話(長野)番外二番

呉服商

宇佐美呉服店

南河内三日市町

麵類・酒類

木谷商店

南河内三日市町

陶器商

八木商店

南河内三日市町

罐詰・酒・生果・乾物

田中食料品店

南河内三日市町
電話(長野)一〇五番

呉服商

日之谷呉服店

南河内三日市町

流行履物

麻トヲ履物店

南河内三日市町

金網商

柴野商店

南河内三日市町

呉服・雑貨

申竹呉服店

南河内三日市町

ハイヤーの御用は

▽御遊覽・探勝・御商用に

價値百%

左近自動車商會

南海高野線三日市町驛前
電話(長野)一六七番

左近自動車商會

長野出張所

南海高野線長野驛前
電話(長野)一〇番

昭和九年十二月二十五日印刷
昭和九年十二月三十日發行

【非賣品】

複製		嚴禁
----	--	----

(内案市日三)

著者 原 靜 村
大阪府岸和田市沼町一八五番

發行兼印刷人 原 德 太郎
大阪府岸和田市沼町一八五番地

發行所 南海新聞社
大阪府岸和田市沼町一八五番地



(景全所作製西中)

製品種目

ボールベアリング
ローラベアリング

取引先

東京・大阪・福井・名古屋
廣島・臺灣・朝鮮・支那
滿州・南洋諸島

中西製作所

所主 中西梅一

南海高野線三日市町驛東
電話(長野)一〇三番

終

